

範科の生徒たちも参列した。遺骸は鎌倉の華藏院に埋葬され、郷里に本墓が建立された。

同年三月三十一日、天来の後任に門人の石橋犀水（本名啓十郎）が採用され、図画師範科第一（第三年の「習字」（毎週三時間）を比田井小琴とともに担当することとなった。犀水は明治二十九年一月九日に福岡県築上郡吉富村矢方に生まれ、広島高等師範学校、広島文理科大学を卒業した。大正六年より天来の門人となり、九州書学院、鯉城書道会を創設し、広島高等師範および広島陸軍幼年学校の教師をつとめていた。彼は第二次大戦後に日展出品作家、新潟大学および二松学舎教授、文学博士、全日本書道教育協会理事および会長、日本書道芸術専門学校（扶桑学園）校長として活躍し、書道界の第一人者と目されるに至った。平成五年二月十五日に死去。その業績については『書学』第五二三号、第五二四・五二五号合併号（平成五年十月、十二月）の石橋犀水追悼特集に詳しく記されている。なお、昭和三十七年まで掲げられていた「東京芸術大学」の木額（芸術資料館蔵）は犀水の筆に成るもので、各地の石碑にも彼の筆跡が留められている。

⑧ 原田謹次郎に講師嘱託

昭和十四年四月十五日、本校は原田謹次郎（号尾山）に講師（東洋文学授業週二時間担任）を嘱託した。原田は明治十五年七月十八日愛知県に生まれ、同四十年本校漆工科を卒業した。同四十一年三月から一年間、中国福建工芸学堂の教師をつとめ、大正三年から同十一年の間、中国各地の美術を調査、研究し、同十四年には大東文

化協会幹事となり、昭和三年四月から同七年三月にかけて外務省文化事業部の助成により日本に現存する中国法書、名画の調査に従事、同七年七月から同十二年三月にかけて同部の助成により中国画論の研究に従事した。同八年四月からは大東文化学院講師（東洋美術史担任）を、また、同十四年二月からは東京帝室博物館事務嘱託の職に就いていた。自筆履歴書（本学蔵）には昭和十四年四月現在までの著述が次のように記されている。

著作概目

- 一大東美術全十二輯 大正十四年至昭和二年 大東美術振興會發行
- 一支那繪畫史一卷 昭和六年 萬里閣發行大支那大系本
溝口禎次郎ト共著
- 一支那南畫大成全二十二卷 昭和六年 興文社發行
河井荃廬外二人ト共撰
- 一支那名畫寶鑑一卷 昭和十一年 大塚巧藝社發行
- 一日本現在支那名畫目錄一卷 昭和十三年 大塚巧藝社發行
- 一支那畫學書解題一卷 昭和十三年 大塚巧藝社發行
- 一支那畫學總論第一輯 昭和十三年 大塚巧藝社發行
編輯執筆中

⑨ 山脇洋二の採用

昭和十四年五月八日、山脇洋二が教務嘱託（彫金部勤務）となった。山脇は明治四十年十二月二日、東京に生まれ、昭和五年本校金工科彫金部を卒業し、同九年以降東京帝室博物館研究生として古代彫金模造に従事していた。なお、同六年より帝展、次いで文展に入選を続け、第二回文展において「龍文之亀置物」が特選となった。